



ドクター板東の メディカルリサーチ Vol. 93

～知恵のある人が世界を 变えていく～

<http://pianomed-mr.jp/>

私たち人間は、ヒトとかとがある。これらにはいつたい、どのような違いがあるのだろうか。

今月は「人」に関連して、漢字の成り立ちなどを含み、いろいろな角度から考えてみたい。

生物学的な人

地球上には、非常に多くの動植物など数多の生物が存在している。そのすべての種類には、学術上の学名がついているのをご存じだらうか。

実は、人間もまた一つの種である。生物学的に考えるとときは、「ヒト」とカタカナで記載することも。国際的には、ヒトの学名は「ホモ・サピエンス(Homo sapiens)」となる。

本学名は「知恵のあるヒト」を意味している。他の動物とは異なり、いろいろな進化を経て、言語や文化などの側面を備えているからだ。ヒトの特徴について歴史的にいろいろな学説が発表されてきた。これ

表1 ヒトの特徴
・ホモ・サピエンス (知恵のあるヒト)
・ホモ・エレクトゥス (直立するヒト)
・ホモ・ハビリス (器用なヒト)
・ホモ・ルーデンス (遊ぶヒト)

らを端的にまとめると表1となる。

医学的には、大脳の機能から考えるとわかりやすい。ヒトが他の動物と違う点を示してみよう。

①言葉を話す。これには広い前頭葉の存在が不可欠である。

②手で仕事をこなす。以前とは異なり、近年、石を使つて木の実を碎く動物も報告されている。ただし、ヒトだけが火を使うことができる。

③微妙な顔の表情が可能。

ヒトと共に生活する犬や猫は、喜び、怒りなど、ある程度、喜怒哀楽の感情を表現できる。泣き声から6種類ほどの感情が判別されるようだ。しかし、ほめられて氣恥ずかしい顔をする犬

や猫はみられない。ヒトは心の状態を顔の表情で表現し、数十種類の感情が表現可能という。

以上の特徴は、ヒトの解剖学と生理機能に関係する。手指や言葉に関連する大脳の面積がとても広くなっているからだ(図1)。

人と人間

歴史を振り返ると、知恵や智恵を持つヒトは、当初は一人で「人」だった。象形文字として、人を横から

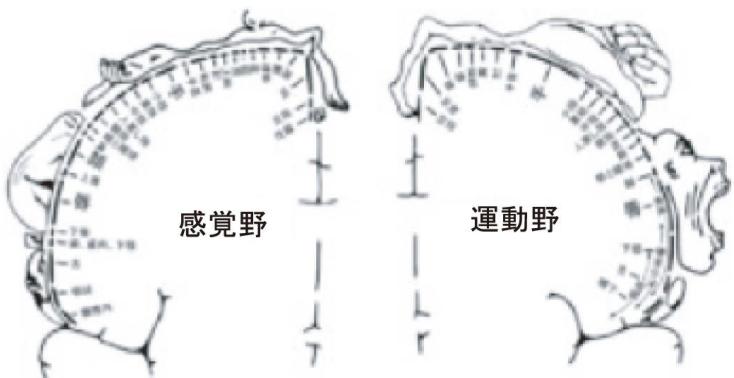


図1

甲骨文	文
亼	人

図2

金文	篆文
人	人

とは、社会的なありかた、関係性、人格を中心としえた「ひと」や「人」を意味している。また、存在のありかた全体をも含んでいるといえよう。

人間とは、人と人との間にスペースがあり、人との関係が存在するもの。いろいろな関係によって、心理的、身体的、社会的距离が違ってくるのだ。

人間の読み方

私たちは通常、人間を「にんげん」と読んでいる。しかし、本来は「じんかん」と読むべきであるのをご存じだろうか。

たとえば、有名な言葉として、「人間到る処青山あり」や「人間万事塞翁が馬」

